

メロン・瓜の栽培法

2011/10/10

植えつけの準備

マクワやメロンはスイカ以上に日当りを好み高温と乾燥することが栽培上必要な条件である。そして、降雨による病害をどうして防ぐかが大きなポイントとなる。植えつけの1月前に完熟堆肥を、20～7日前に石灰を、畑全面にふって荒起しをし、それに緩効性肥料(遅効きの化成配合肥料等)でリンサンやカリ分の多い元肥を、植えつけの7日前位までに畦全面に混和して準備する。畦巾は2～2.4m位で、根の生育、保護のためにもポリマルチをすれば更に効果が高い。畦は排水をよくするために、カマボコ型とし、畦どりは東西畦、北側植え、南面ツル出しが最もよい。

植えつけ

風のない暖かい日を選んで、霜害にあわないように注意する。植えつけに当って深植えは禁物で、浅植えの励行で株元からの立枯病を防ぐことである。植えつけは畦の片側30cmの所にし、株間は75～80cm位とする。植えつけ後はホットキャップをかけて保温する。根切虫予防にデナポンを植え込み時施すとよい。

植えつけ後の手入れ

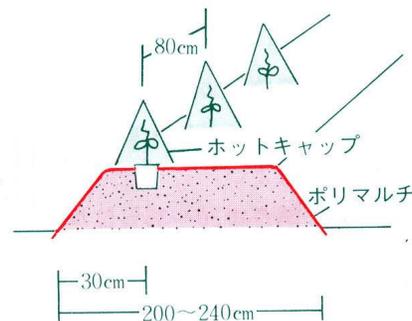
植えつけ後7～10日すると根づくので、キャップを除去するかこ頂点を切って換気する。本葉4～5枚で摘芯すると、子ヅルが出てくるので、捕ったツル3本を残し、他を摘除する。子ヅルは重ならないようにして一方にツル伸しする。子ヅルの8節目以降から出る孫ヅルの第1節仁玉づけするので、子ヅル7節目までの側枝は早目に除去する。尚、着果枝(孫ヅル)は葉を2枚残して摘芯。1株3本ヅル、1ツル2果収穫が良品多収となる。病害防除には徹底し、雨後には必ず殺菌剤で消毒する。

収穫

マクワは玉づけ後30～35日位で、メロンは品種により35～55日位までの差があるので、品種の早晩性をよく知ることである。完熟すると色、香りで判別できるので、必ず完熟栗を収穫のこと。

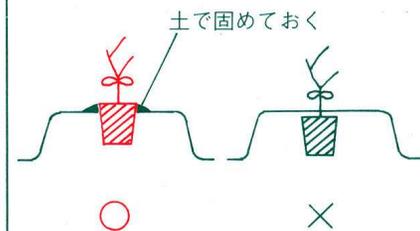
日本種苗協会長崎県支部/市川種苗店
※一部又は全部の引用を禁止いたします

1. 畦づくり



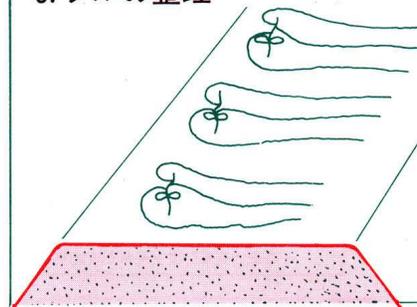
- 元肥は全面に入れ混和する。
- 植えつけは畦の端30cmのところ。
- 北側植え、南面にツル出しが最もよい。

2. 植えつけ



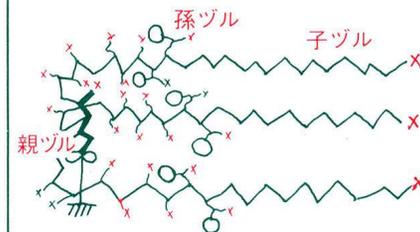
植えつけは、深植は厳禁。根鉢の肩を少し出し土で固めておく。

3. ツルの整理



- ツルの先端を揃える。
- ツル間隔は20cm位。
- ツルとツルが重ならないように。
- 株間は75～80cm。
- 側枝は7節まで摘除。

4. 玉づけ位置と芽かき



- 親ヅルは4～5節で摘芯。
- 子ヅルは畦端(23～25節)一杯で摘除する。
- 着果位置(子ヅル7節)までの孫ヅルは摘除する。
- 着果枝(孫ヅル)は2葉残して摘芯する。
- 1子ヅル2果の収穫をする。